福岡県の主な農産物の生産状況

令和４年 12 月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇大豆◇
収穫は順調に行われ、12 月８日現在の収穫進捗率は 98％（前年同期 98％）です。県南地域では終了しました。県北地域では 12 月中旬に終了見込みです。
台風 11、14 号襲来に伴う倒伏等の影響により粒の肥大が劣り、大粒比率は低いです。収量は前年（88 kg/10a）より多いものの、平年よりやや少ない見込みです。
収穫後に麦播種予定のほ場は、排水対策を早急に実施しましょう。

◇麦類◇
播種作業は順調に行われ、12 月９日現在の播種進捗率は 97％（前年同期 93％）です。大豆後作ほ場を含め、播種終了は 12 月下旬の見込みです。
11 月中下旬播種では、出芽が平年並～２日程度早く、出芽後の生育は順調です。
播種前後の排水、雑草対策を徹底しましょう。
12 月中旬以降に播種する場合は、播種量を増やしましょう。
11 月中旬播種の生育旺盛なほ場では、３葉期になったら踏圧しましょう。

◇イチゴ◇
早期作型の生育は、10 月以降の好天、高温傾向により順調に進み、出荷開始は昨年並の 11 月２日で、現在、１番果房の収穫盛期～終盤です。大玉傾向で、食味は良好です。
普通作型は、１番果房の収穫始期であり、果実肥大は良いが果形の乱れが見られます。
12 月に入り気温が低下しているため、出荷量は年末にかけ緩やかに増加する見込みです。
２番果房の出蕾・開花が早く、連続した出荷になると予想されるため、厳寒期の草勢低下に注意し、電照、温度、摘果などを徹底し、心葉展開時の葉柄長が 10 ㎝程度となるよう管理しましょう。
ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病などの発生がみられることから、病害虫の対策を徹底しましょう。

◇冬春トマト◇
土耕促成栽培の主要作型（９月中旬以降の定植）は、12 月上旬から出荷が開始されています。定植後の生育は順調で、着果負担がかかっているものの、樹勢が安定しており、果実肥大は良好です。
病害虫は、コナジラミ類の発生がやや多いです。
ハウス内気温（夜温 10℃以上、日平均気温 16～17℃）を確保し、多湿に注意して、保温や換気を行いましょう。
病害虫対策と適正な肥培管理を徹底しましょう。

◇アスパラガス◇
本年産の出荷は 11 月で終了しました。２月の冷え込みによる春芽の遅れ、夏季高温による収量、品質の低下により、数量、販売金額は、前年を下回りました。
現在、ハウスを開放し、地上部の黄化、養分の転流を促進中です。12 月の気温低下により順調に黄化しています。
茎葉が８割以上黄化したら、株を地際より刈り取り、ハウス外へ搬出しましょう。
病害虫の越冬を避けるため、畝面に残った残渣をバーナーで焼却しましょう。
ハウス内及び周囲の除草を徹底しましょう。

◇イチジク◇
「とよみつひめ」は、８月中下旬の長雨により品質が低下したものの、全体的には良好です。
「蓬莱柿」は、長雨による品質低下に加え、樹勢低下や春季の少雨による新梢伸長不足により収量が低下しています。
次年産の施設栽培は、早期加温で 12 月上旬に加温を開始しています。
せん定後は防寒対策を徹底しましょう。晩霜害のリスクが高い園は、せん定時期を春先まで遅らせましょう。
樹勢低下園では、客土や有機物の施用を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇
「甘うぃ」は 11 月中旬で集荷終了しました。集荷量は 290t で、前年比 96％とやや少なかったです。販売は 12 月上旬でおおむね終了しました。
「ヘイワード」は 11 月下旬で集荷終了しました。秋季の高温乾燥により果実は小玉傾向のものの、着果量が多く集荷量は前年を上回る見込みです。販売は 12 月上旬から開始しています。

樹勢低下園では、休眠期に有機物の施用や排水対策を徹底し、樹勢回復に努めましょう。
苗木や幼木では、寒害対策を徹底しましょう。
せん定後～発芽前のかいよう病対策を徹底しましょう。

◇施設ギク◇
夏秋ギクの６～11 月の出荷量は、高温による奇形花の増加やスプレーギクへの品目転換により前年比 11％の減少でした。一方、単価は全国的な生産量の減少により、前年・過去５年平均を５～７％上回りました。
年末出荷作型の生育は、おおむね順調です。
白さび病の予防やアザミウマ類、ハダニ類の対策を徹底しましょう。
白さび病は、低温・多湿条件が続くと発生しやすいため、昼間の換気や夜間の温度を適切に維持し、湿度の上昇を防ぎましょう。

◇シクラメン◇
品質は、残暑がなく日照時間にも恵まれたことから、葉数が多くボリューム感があり良好です。また病害虫の発生も少ないです。12 月中旬に出荷ピークとなります。
11 月の平均単価は、５号鉢は平年と同水準です。贈答用に購入される６号鉢は、巣ごもり需要の減少等により前年及び過去５年平均を６～８％下回りました。
アザミウマ類、ホコリダニの対策を徹底しましょう。また、灰色かび病の発生に注意し、適切な加温と除湿を図りましょう。
出荷終了まで対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格は、物価やサービスの値上がりで消費が抑制され、前年比および過去５年平均を下回りました。一方で、省令価格は乳牛去勢の出荷頭数が限定的であることと、輸入代替として引き合いが強かったことから前年と同水準の価格を維持しています。
豚枝肉価格は、外食需要の回復と内食需要も堅調で、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
鶏卵価格は、業務用需要回復と飼料高騰による生産抑制および鳥インフルエンザの影響で供給量が減り、前年比 133％、過去５年平均比 135％と大きく上回りました。
高病原性鳥インフルエンザが近隣県を含め国内で多数発生しているため、鶏舎

の野鳥侵入防止対策、消石灰散布など農場防疫の徹底を図りましょう。
豚においても豚熱等の発生予防に衛生管理の徹底を図りましょう。
寒さに弱い幼畜への寒冷対策を徹底し、疾病予防に努めましょう。